

第32回

元気ソングの最高傑作 『若いってすばらしい』

私が小学生高学年だった頃、よく口ずさんでいた「元気の出る歌」がいくつかあります。『朝だ元気で』『若い力』『この日のために』東京オリ

ンピックの歌』などが代表的なものです。『朝だ元気で』は夏休みに行なわれた朝のラジオ体操のときに覚えたのかもかもしれません。

どれも体育会系の元気創出ソングですが、中学生の後半になると、少し色気が出てきて『明日があるさ』が加わります。作詞の青島幸男が初恋に悩む思春期男子の心境をくすぐってくれていることもあって、大好きな坂本九ちゃんに自分を重ねていました。

そして還暦を超えた今でも口ずさむ極め付きの1曲といえば、昭和41年3月に発売された『若いってすばらしい』(詞・安井かずみ、作編曲・宮川泰、歌・横みちる)に尽きます。歌詞良し、曲良し、歌良し、アレンジ

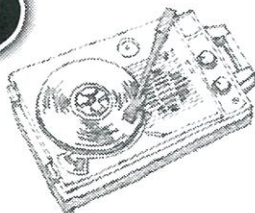
良し、四拍子揃った「元気ソング」の傑作でしょう。

この歌のすばらしさは、若い女性

名曲カルテ

昭和歌謡と いまでも いつまでも

堀井六郎
絵・松本浦



が主人公の歌詞にもかかわらず、老若男女だれもが気持ち良く歌えることですね。そこには作曲した宮川泰が歌を作る際に理想としていた「明るくてやさしくて、覚えやすく爽やかで」の4要素がすべて詰まっています。発売されてからすでに半世紀以上が経過していますが、少しも色褪せることはありません。

古稀を過ぎた横みちるが歌っていても違和感を覚えませんが、何年前かにカバーした女装家のミッツ・マングローブが歌っているのをテレビで見ても、一緒に口ずさみたくなる理由も、この4要素にあります。

また、歌詞に登場する正体不明の「あなた」が曲者で、実は恋人を指しているのではなく、「青春」その

ものを象徴する「鏡の中のもう一人の自分」に歌いかけてるように感じられ、そこが冒頭の元気ソングとの違いです。

安井かずみ27歳の時の作品ですが、その前年、彼女は伊東ゆかりの『おしゃべりな真珠』でレコード大賞作詞賞を受賞、作詞家として一気に上昇気運に乗り、プライベートでは最初の結婚相手と同棲中の頃で、まさに夢を両手いっぱい抱えている時期だったのかもしれない。

編曲も担当した宮川泰は、自作の中でいちばん好きな歌は『若いってすばらしい』であり、中村八大が作曲した『明日があるさ』に感動し、「俺もこんな曲を作りたいな」と願ってきた曲だということを公言しています。

宮川の著書に、お気に入りの歌の題名をそのまま書名にしました『若いってすばらしい』があります。宮川の半生記ともいえるものですが、この本が刊行されたとき、宮川はすでに泉下の人となっていて、最終ページの奥付に書かれている発行日は一周忌の日付でした。宮川が没して12年、今年の3月21日は宮川の第十三回忌に当たる日でした。